

# 新型コロナウイルス対策

国が示す「3つの密（密閉、密集、密接）を避ける」ことや「接触者8割減」は、皆様ご存じのとおりと思います。これらは感染経路が主に飛沫感染と接触感染の2つからなるため注意喚起を促すものです。

- 飛沫感染（感染者のくしゃみ、咳、つばなどと一緒にウイルスが放出）
  - ※「濃厚接触」の定義が「1メートル程度の距離で、感染防止策なしに15分以上接触」に変わりました。
  - ① とにかく他者と距離を取る（可能であれば2m、最低でも1m）。
  - ② ウイルスはしばらく空間をたどる可能性があるため、「換気」は必要（窓は勿論、換気扇も活用）。
  - ③ マスクは咳やくしゃみのエチケットとしては大変有効だが、飛沫感染防止としては過信しない方がよい。
- 接触感染（感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れることでウイルスが付く。他者がそれを触るとウイルスが付着）
  - ① 手指については、手洗いと手指消毒（石鹸や中性洗剤に含まれる「界面活性剤」はウイルスを不活化する）
  - ② 身近な物の消毒については、熱水または塩素系漂白剤 【下表参照】

## 新型コロナウイルス対策 身のまわりを清潔にしましょう。

石けんやハンドソープを使った丁寧な手洗いを行ってください。



手洗いを丁寧に行うことで、十分にウイルスを除去できます。さらにアルコール消毒液を使用する必要はありません。

手洗い		残存ウイルス
手洗いなし		約100万個
石けんやハンドソープで10秒もみ洗い後流水で15秒すすぐ	1回	約0.01% (数百個)
	2回繰り返す	約0.0001% (数個)

（原動次号：感染予防雑誌、80-496-500,2006 びら作組）

食器・手すり・ドアノブなど身近な物の消毒には、アルコールよりも、熱水や塩素系漂白剤が有効です。

（新型コロナウイルスだけでなく、ノロウイルスなどにも有効です）



食器や箸などは、80℃の熱水に10分間さらすと消毒ができます。

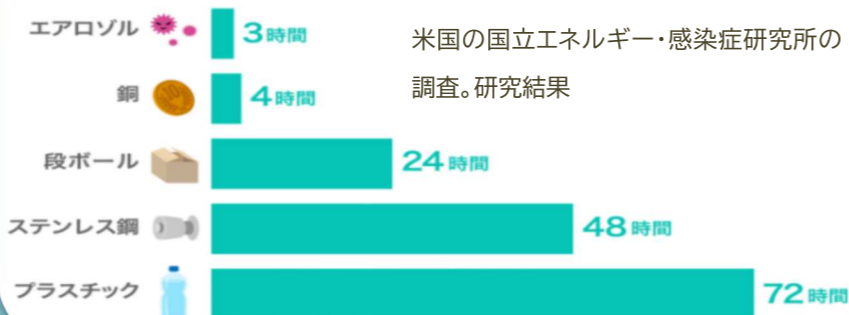


濃度0.05%に薄めた上で、拭くと消毒ができます。

出展：「新型コロナウイルス対策 身のまわりを清潔にしましょう。」（厚生労働省）を加工して作成

※ 一部の物質について、新型コロナウイルスの最大残存期間が実証されました。環境によって前後するのですが、ATMのタッチ画面とその周辺、ドアノブ、エレベーターボタン、1円以外の硬貨（銅の含有量多い）等、一歩外に出れば様々なところで付着している可能性もあり得るので手洗い、消毒は欠かせませんね。

### 新型コロナウイルスの物質別最大残存期間



## お問い合わせ

〒689-0426

鳥取市鹿野町寺内 102 番地

障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

TEL: 0857-84-3267 FAX: 0857-84-3293

E-mail dai2\_info@tottori-kousei.jp (代表)

HP <http://www.tottori-kousei.jp/dai2k.html>

# 鹿野第二かちみ園だより

～33号～



2020年5月発行

### 鹿野第二かちみ園基本理念

1. 利用者の権利を擁護します
2. 利用者主体のサービスを提供します
3. 地域に貢献する施設を目指します

皆様の健康を守る1年

園長 藤崎慎一

ご家族をはじめ、関係者及び関係団体の皆様には日頃大変お世話になります。さて、令和2年度を迎え、例年であれば春の陽気に誘われてご利用者と一緒に様々なところにドライブや買い物に出かけたり、園外行事を企画している時季であります。しかしながら今年度については、新型コロナウイルスの影響で、限られた条件下での活動を余儀なくされています。また、本来であればゴールデンウィークや休日の帰省を楽しみにされるご利用者とご家族の皆様には、原則外泊自粛とさせていただきます。さて、その新型コロナウイルスですが、感染が拡大する一方で、有効とされるワクチンや治療薬の開発・承認（本号発行の頃にはしゅんてしびルが承認されているかもしれませんが、検証データに基づく予防策等も不十分な状態です。ただそのなかでも公的に有効性が認められている情報についていくつかご紹介いたしますので、参考となればと思います。皆様の健康をお祈りするとともに、当園においてもご利用者が健やかで、かつ、楽しみのある生活を送ることが出来るよう一杯支援していく所存ですので、今年度も引き続きよろしく願いいたします。

# 新任者

よろしくお願ひします

- ① 好きな食べ物  
果物
- ② 嫌いな食べ物  
パクチー
- ③ 趣味  
映画・DVD鑑賞
- ④ 一番幸せを感じる時  
お風呂の後の一杯



主任准看護師  
流郷 真由美  
巖城はごろも苑から

- ① 好きな食べ物  
手巻き寿司
- ② 嫌いな食べ物  
柿
- ③ 趣味  
ジョギング
- ④ 一番幸せを感じる時  
仕事帰りのコーヒータイム



支援員 門岡 徹  
羽合ひかり園から

- ① 好きな食べ物  
種類全般
- ② 嫌いな食べ物  
青身魚の煮物
- ③ 趣味  
ストレッチ体操
- ④ 一番幸せを感じる時  
静かに温泉に浸かって入浴している時



介助員 梅津 恭子  
羽合ひかり園から

- ① 好きな食べ物  
いちごのショートケーキ
- ② 嫌いな食べ物  
トマト
- ③ 趣味  
筋トレ
- ④ 一番幸せを感じる時  
一人で7ホールケーキを食べた時



支援員 間屋口 大輔  
いこいの杜から

- ① 好きな食べ物  
牛タン、キ/コ類、魚介類
- ② 嫌いな食べ物  
ネギ
- ③ 趣味  
特に無し
- ④ 一番幸せを感じる時  
美味しいものを食べた時



看護補助  
野山 美德  
(新規採用)

- ① 好きな食べ物  
甘い物
- ② 嫌いな食べ物  
にんじん
- ③ 趣味  
犬と散歩
- ④ 一番幸せを感じる時  
ゆっくり寝られる時!



介助員  
藪田 瑛二  
(新規採用)



支援員 鈴木 聡  
巖城はごろも苑へ



支援員 池添 賢二  
羽合ひかり園へ



支援員 村田 蒔里子  
羽合ひかり園へ



支援員 田村 博  
羽合ひかり園へ



主任准看護師  
斎藤 良子  
退職



介助員 南部 江里  
退職

# 離任者

お世話になりました

# 事例検討会

当園では月に2回、発達障がい児者の専門職をスーパーバイザーとして招聘し、事例検討会を開催しています。事例内容は様々で、課題行動や、個人の強みを伸ばす取り組み、作業所への移行訓練等を行っています。検討会を開催することにより、ご利用者様の生活の質の向上や、職員の支援技術向上に繋がっています。この検討会も5年間続いており、毎年取り組んだ内容を発表する事例報告会を開催しています。そこで、今回は昨年報告会の内容を簡単にまとめてみましたのでご覧ください。

## 1丁目

「生活の質を向上させる為の取り組み〜人との関わりの中で見つけたやりがい〜(Aさん)」  
精神的な活動性が乏しいAさん。作業への意欲も乏しく、トーンシステムを活用してAさんの好きなカップ麺を提供するも作業への意欲は高まらなかった。過去にラーメン店への外出や就労経験があることから、給料制の作業を提供し、ラーメン店へ外出してみても？と意見が上がった。Aさんに事情を説明し話を聞いたところ、ポツリと「ラーメンを食べに行きたい」と意思表示された。そこで、作業をし、納品をして給料を貰う流れを統一し、給料をラーメン外出の為に使うことをAさんに明確化した。それにより作業への意欲も高まり、職員との関わりも増えたためか意思表示されることも増えた。過去の情報から仮説を立てたことが良い結果に繋がったケースであった。「ROAD TO SUZUKAKE〜明日の為にその1その2その3(Bさん)」  
年齢が若く、作業能力の高いBさんが今後も当園でのみ生活するのかという疑問から就労継続支援B型事業所に相談する。そこで、Bさんの苦手な部分である3つの項目を満たして欲しいと回答があった(排泄の清潔、混乱無く作業に取り組み、力加減の調整)。そこで、課題分析を行い直近の目標と最終目標を設定したトイレトレーニングとスケジュールの使用を行うことになった。行って行く中で、課題を明確化↓見直し↓スケジュールでの支援を繰り返して、最終目標へと徐々に近づいていった。現在は完全自立へ向けて支援継続中。また、本人の特性に即した作業を選定することや働く事で工賃を貰い生活に楽しみを増やしていく事も今後の展望として考えている。

## 2丁目

「30年以上続いている自傷への間接的なアプローチ〜自傷からちょっと関心をそらしてみたい〜(Cさん)」  
入所当時から自傷が続き、自傷に直接関わる支援(手袋の装着や自傷が無ければ好きな物が買える)を行っていたが効果が得られず、検討会で話し合った結果自傷に間接的に関わる支援を行うことになった。まず、自傷時間のチェックを行い、一番多い時間帯に草取りを取り入れた。草取りは帰省された際にCさんが頑張られていることから取り入れた。支援マニュアルを作り支援を統一し、トーンシステムを活用することで、草取りが定着し、一番多い時間帯の自傷は減少したが、別の時間帯に自傷が増えてしまった。記録から隙間時間に自傷することが分かった為、引き続き自傷の多い時間帯に焦点を当てて自傷に間接的に関わる支援を行っていく。

## 3丁目

「中年期になってから入所された方の支援を考える〜ダウン症の方のケース〜(Dさん)」  
在宅でご両親が面倒を見ていた方で、何度かショートステイを行い、慣れた頃に入所されたが、暫く経ってから脱衣行為、物投げ、不眠等の行動が見られ始めた。そこで、行動が起る時間を記録した結果、職員が離れた時間に起こることが分かった。今まで家族という頼れる人が傍にいた環境が一転してしまつたと仮設し愛着関係を構築する支援を始めた。担当制を導入し職員が入替わってもDさんの対応に切れ目がないよう余暇や関わり方の支援を行った。結果、徐々に脱衣行為、物投げ、不眠が収まっていき、現在ではほぼ見られていない。行動の意図を読み取り支援することで、Dさんに安心感や信頼関係を築くことが出来たケースであった。